

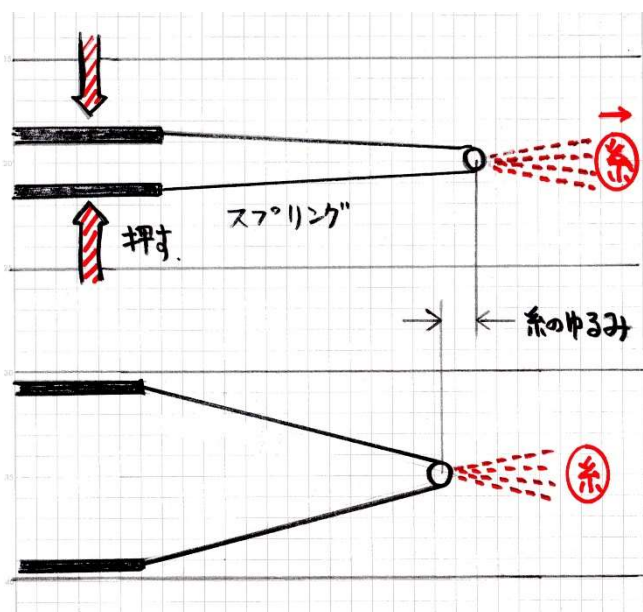
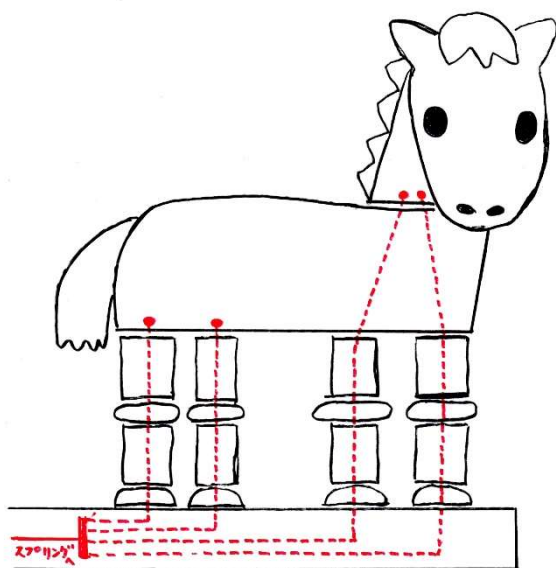
くにゃとなる馬 脚がなくなった

ゆきや 2021.04.09



台から横に出ている黄色い翼を、指で押し込むと、馬は“くにゃっ”とへたり込んでしまいます。このだらしのない恰好が、人気なのでしょう。

台の中のスプリングが、4本の脚と首に通した糸を引っ張って、シャンと立っています。黄色の翼を押すと、スプリングが伸びて引っ張りが緩み、くにゃとなる訳です。台の中のメカを見たい所ですが、すべて接着されているので、叶いません。想像すると、こんな感じでしょうか？



ところがこの馬、右前脚がありません。糸が切れた拍子に、部品が無くなってしまったのでしょうか。上の写真で、足元の台から糸の端が出ていますね。また右の写真で、首の所に、糸の痕跡が見られます。(黒丸)ここから糸が胴体～脚の中を通り、切れた所につながっていたのでしょうか。



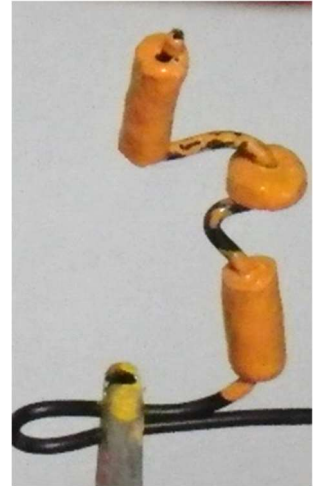
修理は、脚のパーツの複製と、組み立てです。

脚の長い部分は、やや太めの塩ビパイプが手元にあり、少し削るだけで、似たものが作れました。膝と蹄は、パテで似たようなものを作りました。

写真右端の大きめの丸いのが蹄です。中央の小さな丸いのが膝です。



パテが固まった所で、似た色を水性エナメルで作り、塗装しました。



組み立ては、台座から出ている糸に新しい糸を結び、脚を通り抜け、胴体に入り、首の穴に入れました。ただ、そこでは結べないので、たてがみの所に出して、結び目を作って、止めました。結び目は、たてがみと同じ黒色に塗って、目立たなくしました。

*メーカーが作る時は、上から糸を通して行き、台座の中でスプリングに結んだのでしょう。修理は、全てが接着された中で、逆の手順でしなければならないので、やりにくさ倍増です。

さて、脚の治った“くにゃ馬”です。

ちょっとぎくしゃくしている所が、愛嬌と思う事にしましょう。

